

科目名 (科目番号)	神経系障害 理学療法評価学 (062221)	教員名 桐山 希一	学科等	理学療法	必須	履修年次	3
			曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
			オフィスアワー		火～木	8:00～9:00 A308	
授業概要	科目名は「神経系障害理学療法評価学」とあるが、扱う内容については注意して欲しい。「神経系障害基礎理学療法学」では脳血管障害の理学療法を学習するのに対して、この科目ではパーキンソン病や脊髄小脳変性症といった中枢神経の変性疾患、および代表的な神経・筋疾患の理学療法を学習する。これらの理学療法の基礎および評価の双方をここで学ぶこととする。また、ここで学んだ知識や技術に関する演習は「神経系理学療法治療学」にて演習する。						
準備学習	毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。						
授業計画	回	授業項目	到達目標・学習内容				
	1	神経学的検査	到達目標:各種神経学的検査の結果がどのような症状を反映するのかを理解する。 学習目標:錐体路と錐体外路、上位・下位運動ニューロンの相違、また脳神経検査について学ぶ。				
	2	慢性進行性神経障害に対する理学療法	到達目標:慢性進行性神経傷害に共通する特徴と治療の原則を理解する。 学習目標:"神経疲労"の概念や低負荷高頻度の原則、治療に際しての留意事項について学ぶ。				
	3	パーキンソン病・パーキンソン症候群の評価	到達目標:パーキンソン病およびパーキンソン症候群の理学療法評価について理解する。 学習目標:パーキンソン症状の評価方法、on-offとwearing-off現象や日内変動について学ぶ。				
	4	パーキンソン病・パーキンソン症候群の理学療法	到達目標:パーキンソン病の理学療法を理解する。 学習目標:すくみ、突進、小歩症への対応や運動量管理の方法について学ぶ。				
	5	運動失調または運動の協調性に関する評価・治療	到達目標:運動失調症状、または身体運動の協調性とその理学療法について正しく理解する。 到達目標:小脳血管障害や脊髄小脳変性症の評価・理学療法の原則を学ぶ。				
	6	神経・筋疾患の理学療法(1)	到達目標:神経・筋疾患に対する理学療法の考え方を具体例を通して理解する。 学習目標:筋萎縮性側索硬化症の理学療法について学ぶ。				
	7	神経・筋疾患の理学療法(2)	到達目標:神経・筋疾患に対する理学療法の考え方を具体例を通して理解する。 学習目標:ギラン・バレー症候群、多発性硬化症の理学療法について学ぶ。				
	8	神経系障害の理学療法～最近のトピックス	到達目標:神経系障害に対する理学療法における最近の話題を知る。 学習目標:治療機器の発展、バーチャルリアリティ技術の利用について学び、今後どのように発展していくのか、治療にどのように利用できるのか、可能性を考えてみよう。				
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
成績評価の方法・基準	期末試験により評価(100%)する。						
教科書	Crosslink 理学療法学テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ		中山恭秀,鈴木俊明 編集		メジカルビュー社		
参考図書	①神経診察クロスアップ-正しい病巣診断のコツ ②ビジュアルテキスト脳神経		鈴木 則宏(編) リンダ ウイルソン・ポウエルズ他著		メジカルビュー社 医学書院		
教員からのメッセージ	用語やその定義についてはただひたすらに暗記をするだけでは役に立ちません。 必ず意味を考えながら、そして手と身体を動かしながら身につけていくようにしましょう。						